

転倒災害を防止せよ



すべらない ころばない 大分県

大分労働局 労働基準部 健康安全課

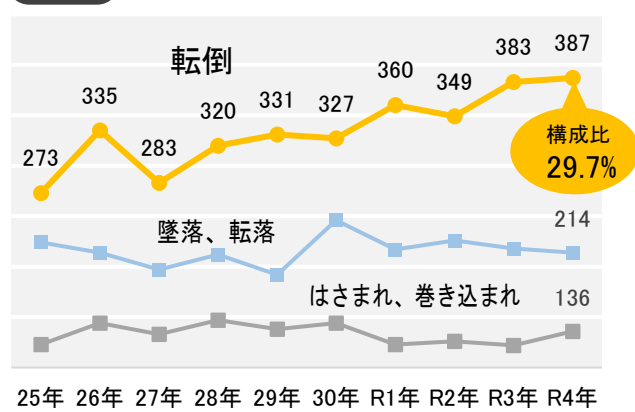
大分県では、労働災害のうち、転倒災害が29.7%を占めています 令和4年

厚生労働省などでは、平成27年から転倒災害防止に取り組んできましたが、大分県では、依然として、転倒災害の増加傾向に歯止めがかからず、休業4日以上労働災害の中で転倒災害が全体の29.7%を占め、最も多くなっています。

令和5年度から始まった第14次労働災害防止計画においても、転倒災害を労働者の作業行動に起因する労働災害として位置づけ、災害件数の減少を目指すとしています。

本ページでは、大分県における転倒災害の特徴と効果的な転倒災害防止対策を解説します。

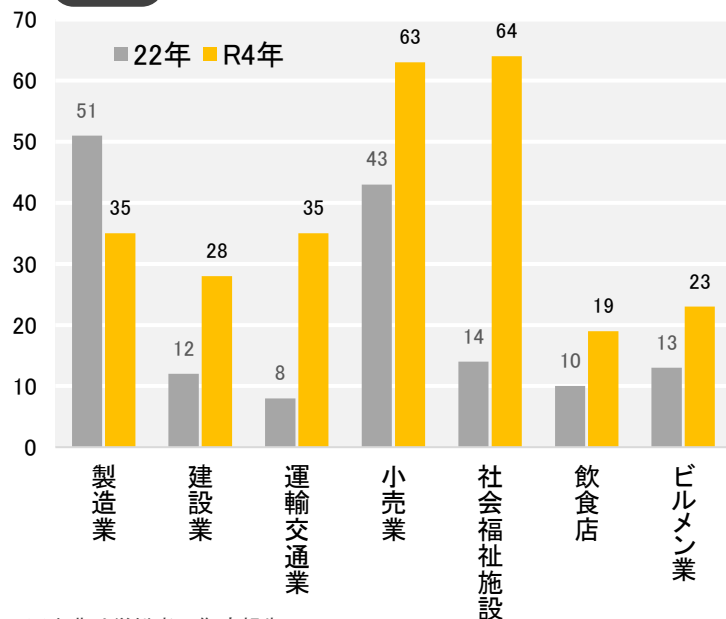
大分県 事故の型別労働災害の推移 | 全産業



25年 26年 27年 28年 29年 30年 R1年 R2年 R3年 R4年
※出典は労働者死傷病報告

転倒災害の約7割は、第三次産業の職場で発生しています

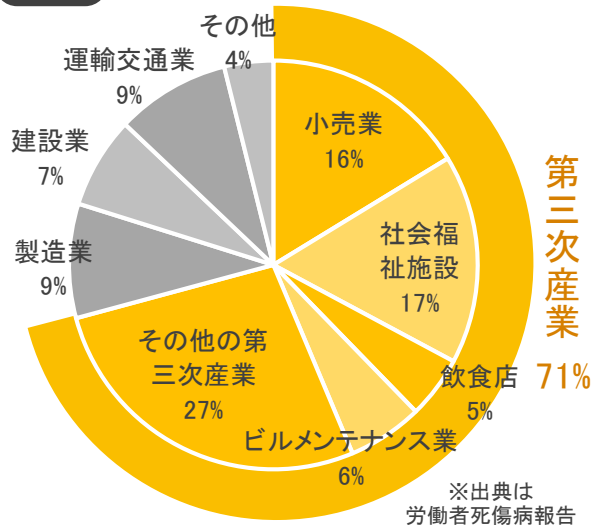
大分県 転倒災害の業種別発生状況



※出典は労働者死傷病報告

- ☞ 転倒災害は、平成22年と比較すると、製造業以外の主要産業で増加しています。
- ☞ 転倒災害のうち、71%が第三次産業の職場で発生しています。
- ☞ 平成22年との比較においても、第三次産業の増加率が高くなっています。
- ☞ 転倒災害の起因物は、「通路」が最も多く、45%を占めています。

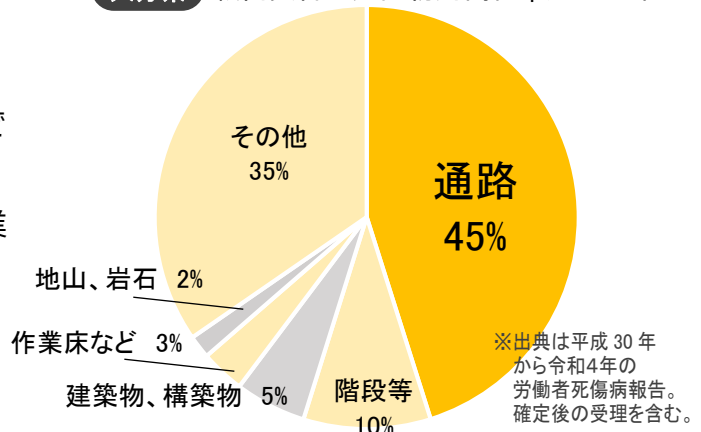
大分県 転倒災害の業種別発生割合 | 令和4年



※出典は労働者死傷病報告

転倒災害の起因物の半数は「通路」です

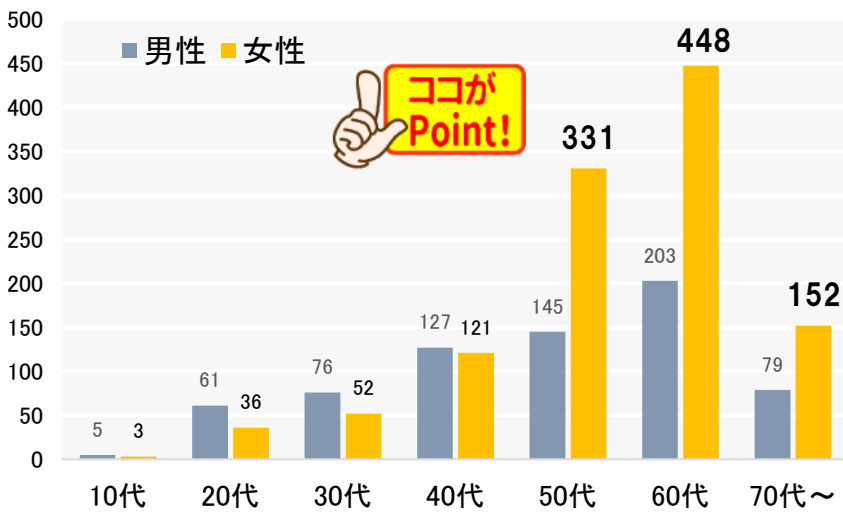
大分県 転倒災害の起因物別割合 | 過去5年



※出典は平成30年から令和4年の労働者死傷病報告。確定後の受理を含む。

転倒災害の50%は、50歳以上の女性が被災しています

(人) 大分県 転倒災害の年代別・男女別発生状況 | 過去5年



※出典は平成30年から令和4年の労働者死傷病報告。確定後の受理を含む。

☞ 5年間の男女別発生件数は、男性：696 女性：1,143 と女性が多くなっています。

☞ とくに **50歳以上の女性の発生件数が多く、全体の50%を占めています。**

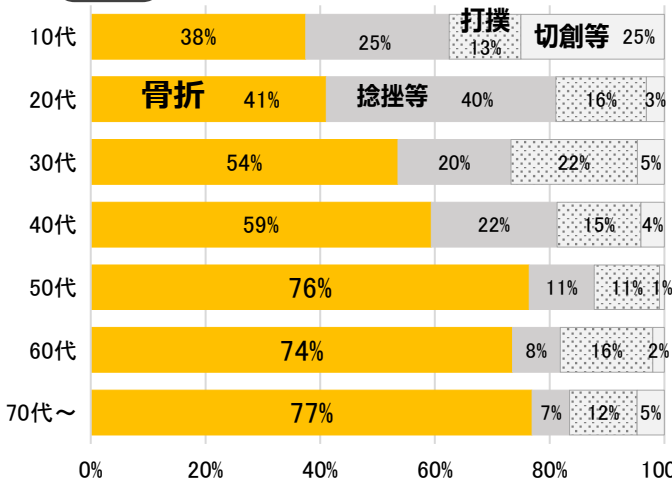
☞ 50歳以上の男女比は概ね1：2となっています。

✓ **50歳以上の女性労働者への転倒災害防止の取組が求められます**

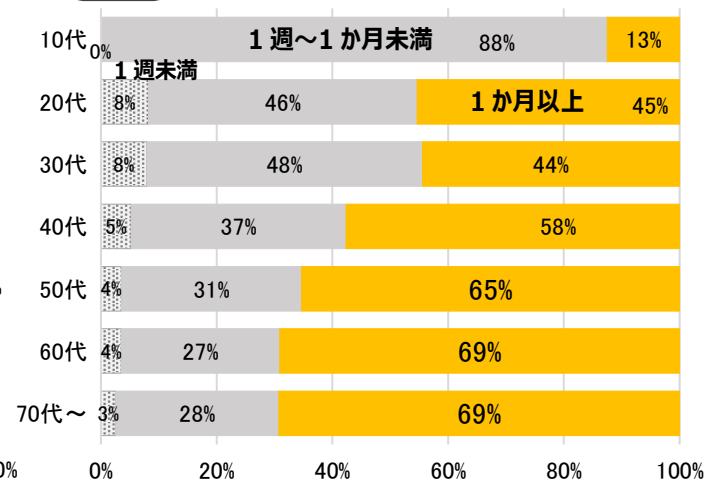


年齢が高くなるほど、転倒で骨折する割合と、休業が長期化する割合も高くなっています

大分県 転倒災害の年代別傷病性質 | 過去5年



大分県 転倒災害の年代別被災の程度 | 過去5年



☞ 転倒による休業4日以上災害のうち、**6割が骨折によるものです。**

☞ **50歳以上の65%で、休業期間が1か月以上に及んでいます。**

※出典は平成30年から令和4年の労働者死傷病報告。確定後の受理を含む。左図も同じ。

転倒災害の原因は、大きく3つに分けられます



滑り

床の素材が滑りやすいものであったり、**床に水や油などが残ったままの状態**であったりすると、滑って転倒しやすくなります。



つまずき

床に**凹凸や段差**があり、つまずいたという例や、**放置されていた荷物や商品**などにつまずいて転倒したという事例が多くあります。



踏み外し

大きな荷物を抱えて**階段を下りるとき**など、足元が見えづらいつきに足を踏み外し、転倒することがあります。

女性には特有の転倒リスクがあります

靴 ハイヒールは、接地面積が狭く、姿勢が安定しないことがあります。

服 タイトスカートは歩幅が狭くなり、ロングスカートは足元が見えにくくなります。

転倒災害防止対策のポイント

- ✓ 転倒する要因を取り除き、高齢者や女性にやさしい職場環境をつくりましょう
- ✓ 転倒要因が取り除かれた職場では、安心して作業ができるため、作業効率もあがります

4S(整理・整頓・清掃・清潔)を徹底する	転倒しにくい作業方法に改善する	その他に講じる対策
<ul style="list-style-type: none"> ・歩行場所に物を放置しない。 ・用具、台車は所定位置を決める。 ・床面の汚れ(水、油、粉など)を取り除く。 ・床面の凹凸、段差などを解消する。 ・通路にコードを横断させない。 ・転倒しにくい床材、床塗装に変更する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間に余裕をもって行動する。 ・滑りやすい場所では、小さな歩幅で歩行する。 ・足元が見えにくい状態で作業しない。 (適切な照度を確保する) ・両手がふさがる荷物の運搬は階段を避ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動や作業に適した靴を着用する。 ・職場の危険マップの作成による危険情報の共有を図る。 ・転倒危険場所にステッカーなどを貼り、注意喚起する。 ・加齢に伴う身体機能の変化を意識させ、健康と体力づくりに取り組む環境をつくる。

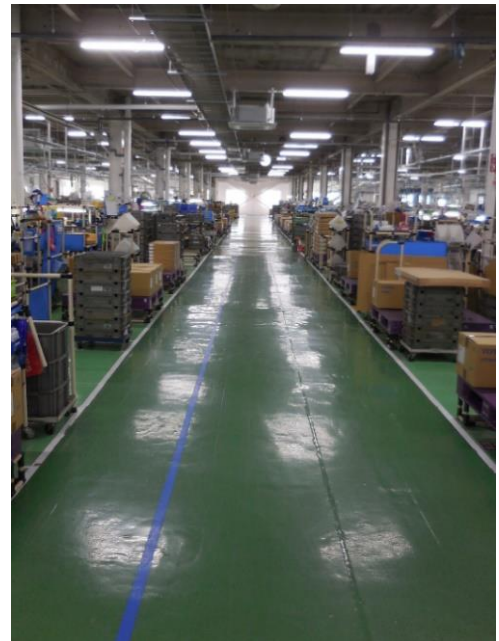
POINT 1 4S活動を徹底し、転倒要因を取り除く

☞ 4Sとは「整理」、「整頓」、「清掃」、「清潔」のことで、これらを日常的な活動として行うのが4S活動です。

SEIRI 整理 必要ない物は捨てる	SEITON 整頓 必要な物をすぐに取り出せるようにする	SEISOU 清掃 綺麗に掃除をする	SEIKETSU 清潔 整理・整頓・清掃を維持する
--	--	--	---

☞ 4S活動は労働災害の防止だけでなく、作業のしやすさ、作業の効率化も期待できます。

☞ 人の目に触れにくいバックヤードも整頓を忘れないようにしましょう。



POINT 2 加齢などによる自分の転倒リスクを知る



☞ 一般的に、加齢とともに骨や関節、筋肉などの運動器が衰えることから、そのサインがあるか「ロコモチェック」を使って簡単に確かめましょう。

- ※ ロコモ(ロコモティブシンドローム) = 「立つ」「歩く」といった移動機能が低下している状態のこと。
- ※ ロコモチェック = 「片脚立ちで靴下がはけない」などの7つの項目で確認します。

☞ 「たった一度の転倒で寝たきりになることも。転倒事故の起こりやすい箇所は？」

☞ 市町村が実施している「^{こつそしょうしょう}骨粗鬆症検診」を受診しましょう

中高年齢の女性については、上記のとおり、転倒による骨折のリスクが高くなっています。市町村が健康促進事業として一定年齢の女性住民を対象に実施している骨粗鬆症検診を受診しましょう。



ロコモ ONLINE



政府広報オンライン